

奈良県立美術館

プレスリリース／2022年07月22日

特別展 野田弘志 真理のリアリズム

NODA HIROSHI Absolute Realism

2022年9月17日(土)－11月6日(日) 主催：奈良県立美術館・朝日新聞社 会場：奈良県立美術館

日本のリアリズム絵画を代表する画家・野田弘志の画業の全容に迫る回顧展



《やませみ》1971年 豊橋市美術博物館

展覧会の趣旨

野田弘志（1936－）は、日本のリアリズム絵画を代表する画家の一人です。東京藝術大学を卒業後、イラストレーターとして多忙な日々を送る中で、絵画制作への想いが高まり、30代半ばより画業に専念するようになりました。広島市立大学芸術学部で後進の指導にあたったのち、現在は北海道のアトリエで日夜制作に没頭する日々を送り、傘寿を超えてなお、リアリズムの画壇をけん引し続けています。

本展は、画家・野田弘志の最初期から近作まで、その画業の全容を回顧するものです。自身のスタイルを模索していた学生時代の作品、広告会社時代のイラストやデザイン。画壇デビューを果たした頃の細密な静物画群（「黒の時代／金の時代」）から、その名が全国的に知られる契機となった新聞連載小説『湿原』（加賀乙彦著）の挿絵原画。骨、あるいは生ける人間を描き、死生観を示そうとしたシリーズ「TOKIJIKU（非時）」「THE」、そして近年手掛けている等身大肖像のシリーズ「聖なるもの」「崇高なるもの」まで。人物・静物・風景、いずれのモチーフを前にしても、一貫してひたすらに見つめ、描くことで「在る」ということを突き詰めようと、野田弘志が歩んできたリアリズムの道をたどります。

出品件数（予定）

198件（出品件数の合計） ※会期中に展示替えあり

展示構成と見所

第1章 黎明 -学生からイラストレーター時代-

第II章 写実の起点と静物画

第III章 挿絵芸術 -新聞連載小説『湿原』-

第IV章 風景を描く -自然への憧憬-

第V章 生と死を描く -TOKUJIKUシリーズ/THEシリーズ-

第VI章 存在の崇高を描く -聖なるものシリーズ/崇高なるものシリーズ-

●静物画

画壇デビューを果たした1970年代から80年代にかけて、野田は主に、背景が黒く塗られ、モチーフの存在感が際立つ作品を制作していました。80年代には金地あるいは白地の背景が作品の大半を占めるようになり、やがて実際にモチーフのある空間そのものを描くように変化していきます。モチーフも、野菜や草花などから、生命の本質を追求しようと化石や骨へ、ついには「存在」を追求するべくロープ一本のみに絞られるまでに至ったのです。

●風景画

『湿原』挿絵制作のため北海道に取材旅行を行ったことをきっかけに、北海道の大自然に強く惹かれていった野田。と同時に、風景画も制作するようになりました。静物や人物を描くときと変わらないスタンスで細密に描かれた風景は、現実以上のリアルさでもって観る者に迫ります。

●挿絵芸術

加賀乙彦著『湿原』は、朝日新聞に掲載された連載小説です(1983年5月7日～1985年2月5日)。野田は挿絵の原画制作を担当。野田ならではの緻密な描きぶりと、場面の絵解きではない、小説と自由な関係性を保った表現が評判となって、一躍その名が全国に知られるようになりました。会場では、全628点のうち110点余りを展示します。

●人物画

1997年以降、裸婦をモチーフにした「THE」シリーズ、「聖なるもの」シリーズ、「崇高なるもの」シリーズと、継続して人物画を制作してきました。これらは、眼の前の一人一人を描くことを通して「人間とは何か」を問う試みです。特に、音楽家や絵を学ぶ学生、著名な研究者などが等身大以上のサイズで描かれた「崇高なるもの」は、その飾り気のないポーズと表情ゆえに、一人一人の存在感が際立つシリーズとなっています。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催 会場	【主催】奈良県立美術館、朝日新聞社 【会場】奈良県立美術館 〒630-8213 奈良県奈良市登大路町10-6 TEL 0742-23-3968 / FAX 0742-22-7032 / テレホンサービス 0742-23-1700 美術館公式ホームページ https://www.pref.nara.jp/11842.htm
会期	2022年9月17日(土)～11月6日(日) (45日間) ※会期中一部作品の展示替えをいたします。 [前期] 9月17日(土)～10月16日(日) [後期] 10月18日(火)～11月6日(日)
後援(予定)	奈良テレビ放送、奈良新聞社、西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社
開館時間 休館日	9時～17時(入館は16時30分まで) 月曜日(ただし9月19日、10月10日、10月31日は開館)、9月20日、10月11日
観覧料	一般1,200(1,000)円 大・高生1,000(800)円 中・小生800(600)円 ※()内は20名以上の団体料金 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保険福祉手帳(アプリ等を含む)をお持ちの方と介助の方1人、外国人観光客(長期滞在者・留学生を含む)と付添の観光ボランティアガイドの方は、無料でご観覧いただけます

交通案内

近鉄奈良駅 1番出口から奈良公園に向かって徒歩5分
JR奈良駅 東口バス乗り場から奈良交通バスにて5分「県庁前」下車100メートル

▼会期中の催し

会期中の催し
(当館主催事業)

◆オープニング記念 特別鼎談
語り手：野田弘志氏(画家)、南城守氏(美術評論家・絹谷幸二天空美術館顧問)
聞き手：当館学芸員
日時：9月17日(土)14時～(約90分)
会場：レクチャールーム(1F) 定員：50名(要事前申込・先着順)
[特別鼎談の参加申し込みについて]
聴講のお申し込みは9月1日(木)からEメールまたは電話にて受け付け、定員に達し次第締め切ります。申し込み方法の詳細は当館ホームページ(<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>)などでご確認ください。

◆美術講座
講師：深谷 聡(当館主任学芸員)
日時：10月23日(日)14時～(約90分)
会場：レクチャールーム(1F) 定員：50名(先着順)、当日13時より当館受付にて整理券を配布します。

◆当館学芸員による展示ガイド
日時：10月1日・15日、11月5日(いずれも土曜日)14時～
会場：展示室

※上記イベントへの参加には当日の観覧券が必要です。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、イベントの実施・内容を変更する可能性があります。

ギャラリー展示

ギャラリー展示]奈良・町家の芸術祭はならあとによる連携展示
「未来へ繋ぐサステナブルなアートプロジェクト～はならあとの活動紹介～」
1階ギャラリー・入場無料

取材のご依頼 広報に関するお問い合わせ	奈良県立美術館(展覧会企画担当：主任学芸員 深谷 聡) 〒630-8213 奈良市登大路町10-6 TEL 0742-23-3968 FAX 0742-22-7032
------------------------	---

広報用画像リスト + 作品の解説

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。

◇必ず下記の**キャプション（太字下線は必須）**および備考欄の**展示期間**もご掲載ください。

制作年代、素材・技法、サイズの掲載は各メディアの掲載スペースに応じてご判断ください。

◇掲載にあたり作品部分のトリミング、文字載せはご遠慮ください。

No.	画像	キャプション	解説	備考
1		「やませみ」 豊橋市美術博物館 1971年 油彩、板 80.3×116.7(cm)	70年代に制作された静物画群「黒の時代」シリーズを代表する作品。やませみの剥製、松ぼっくり、向日葵などのドライフラワーが黒の背景に神秘的に浮かび上がります。	
2		「涙」 豊橋市美術博物館 1983年 鉛筆、紙 10.5×14.3(cm)	加賀乙彦による朝日新聞掲載の連載小説『湿原』の挿絵の1作。皮膚のシワ、睫毛、虹彩の映り込みまで克明に描写された瞳が印象深く、小説の世界をさらに奥深いものとしています。	後期展示
3		「聖なるもの THE-IV」 ホキ美術館 2013年 油彩、カンヴァス 200.0×200.0(cm)	自宅の庭に見つけた鳥の巣を描いた1作。作者は中央の2つの卵、それを守るために作られた緻密な巣の造形に、生命をはぐくむ自然の神秘を感じ取りました。	
4		「黒い風景 其の三」 豊橋市美術博物館 1974年 油彩、板・麻布 145.5×112.1(cm)	中央に枯れた麦の束、その周辺には枯葉、周囲に飛翔しているのは、本作を描いている際に湧き出てきた蛾です。枯れた麦や枯葉と対照するように、生の描写として蛾が描かれています。	
5		「THE-IV-1」 一番星画廊 1997-2000年 油彩、カンヴァス 162.1×162.1(cm)	「THE」シリーズのテーマは今相対している生命をありのままに見つめることでした。胎児のように丸まったポーズは、一つの生命としての人の視点を意識させます。	